

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 揖斐川町

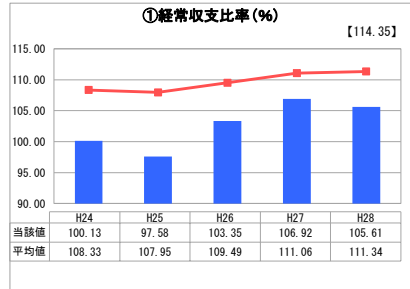
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	50.59	51.82	1,584	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,145	803.44	27.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
11,381	15.90	715.79

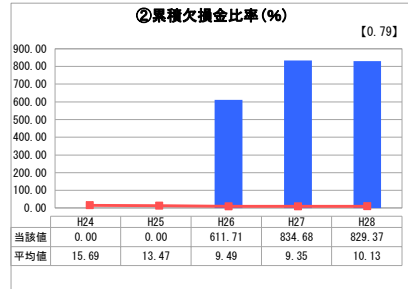
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

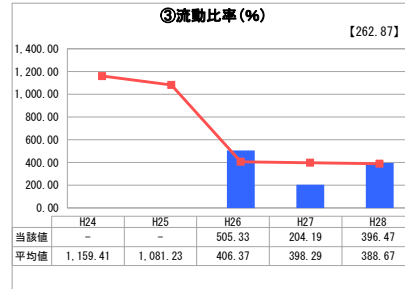
1. 経営の健全性・効率性



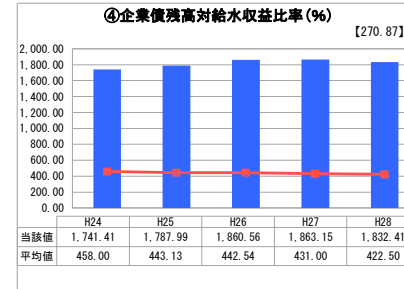
「経常損益」



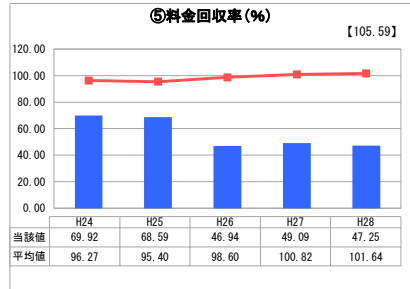
「累積欠損」



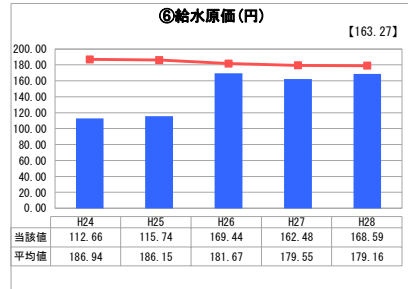
「支払能力」



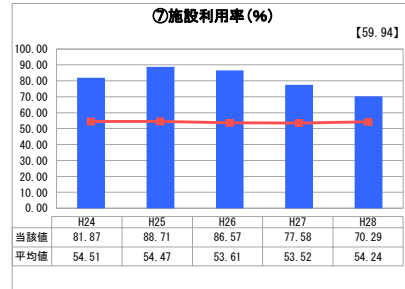
「債務残高」



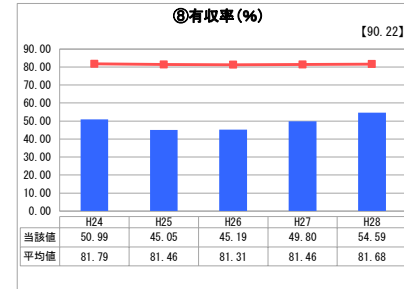
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

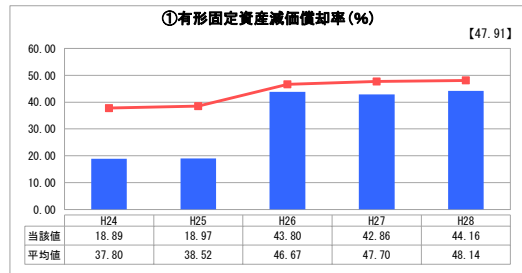


「施設の効率性」

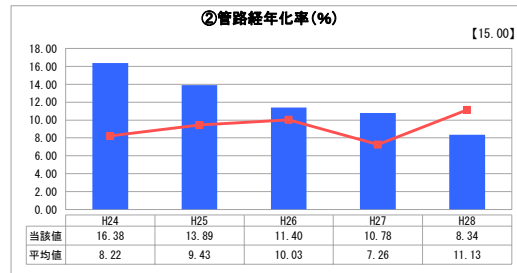


「供給した配水量の効率性」

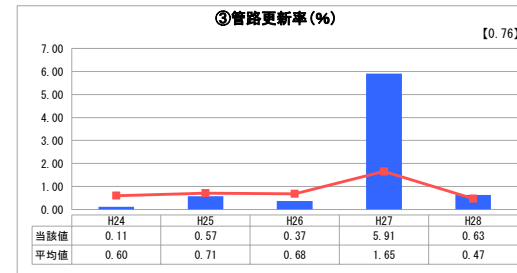
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を超えており黒字経営ではあるが、類似団体平均値より低い値である。また、⑤料金回収率を見ると100%を大きく下回っているためである。料金改定について検討が必要である。②累積欠損比率は、平成26年度の会計制度改正に伴うみなし償却の廃止により実態が明らかとなり高い値となっている。平成27年度数値より減少したものの依然高い値となっている。料金改定を含め検討し、経営改善を図る必要がある。④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値よりかなり高い値となっている。これは、下水道工事に併せて支障水道管と老朽管の布設替を実施しているためで今後もほぼ同等で推移すると思われるが、平成31年度以降は、布設替工事も終わるため減少していく見込みである。⑥給水原価は、類似団体平均値より低い値となっているが、H27年度より増加した要因は、量水器の取替工事がH27年度より大幅に増えたことによるものである。今後も経費削減等に努めたい。⑦施設利用率は、類似団体平均値と比較しても高くなっており施設利用状況や稼働率がいいと考えられるが、⑧の有収率を見ると、H26年度から上昇傾向にはあるが、類似団体平均値を大きく下回っており、収益につながらない。要因としては、老朽管による漏水が考えられ、この対策として、現在下水道整備に併せて支障水道管と老朽管の布設替と漏水調査を実施しており数年後には有収率の向上も見込まれる予定である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より低い値ではあるが、計画的に更新を行っていききたい。②管路経年化率は、現在下水道工事と併せて更新しており、今後も継続して老朽管の対策に取り組み老朽管の解消を図る計画である。③管路更新率は、下水道工事と併せて老朽管を更新したもので、今後も下水道整備の計画に伴い実施予定で数年後には老朽管の解消が図れる見込みである。H27年度においては、下水道工事に合わせて水道管の布設替をできたが、H28年度については、下水道工事の管路工事が大幅に減少したために水道管の布設替も減少した。

全体総括

経営の健全性・効率性では、現在の給水収益では賄えきれず赤字経営となっており一般会計からの繰入金で経営を維持している状況であるため、料金改定について検討する必要がある。また、有収率が低いため、老朽管の更新や漏水調査により有収率の向上を図っていききたい。今後人口減少による給水収益の減少が見込まれるため、経費削減に取り組み経営の安定化を図る必要がある。また、老朽化の状況では、耐用年数を経過した管路や施設等が増えてくるため計画的な更新に努めていききたい。平成29年度に経営戦略を策定し将来にわたって安全で安心な水を供給できるよう事業経営に努めていきたい。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。